

# 水上交通ネットワーク

中央区ウォーターフロントプロジェクト 06'~07'  
環境情報学部 4年 勝山夏奈

## <プロジェクト概要>

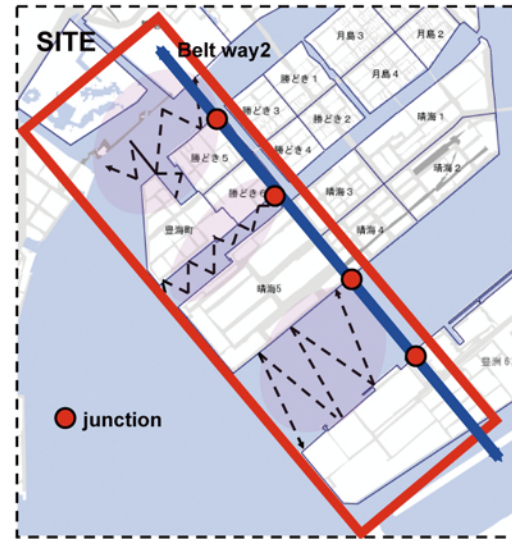
東京都中央区のウォーターフロントである月島・勝どき・豊海町・晴海・豊洲エリアを対象に水上交通ネットワーク（水上バスなど）や水際の空間利用の過去と現状を調査、2016年開催予定の東京オリンピックに向けて水際空間利用のプロトタイプを提案するプロジェクト。

## <プロジェクトの本質>

2016年東京オリンピック開催に向けてメインスタジアム建設予定の晴海に都営地下鉄大江戸線の延伸計画が持ち上がり、また、勝どきから新豊洲までを結ぶ環状2号線延伸の建設計画が上がった。他の交通網との結節点の欠如が水上交通の衰退に繋がっていると考え、新たな交通網と水上交通との交通結節点（junction）を見出し、水上交通の可能性を引き出す水際空間利用の提案を行うこと。

## <プロジェクトに関する疑問点・問題点など>

膨大な文献、資料などからのリサーチデータは保存されているが、フィールドワーク等で眼と足で稼いだ情報の蓄積が少ない為、プロトタイプ提案が安易なものに見える。アウトプット（水上バスのコースを増やす）への裏付けが乏しい。現実的な案であるかが懐疑的。



## <介入方法>

### ①対象地区の水上交通ネットワーク・他交通網のアップデート（2014年版）

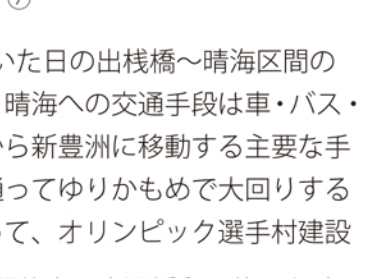
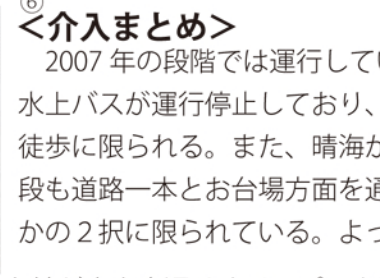
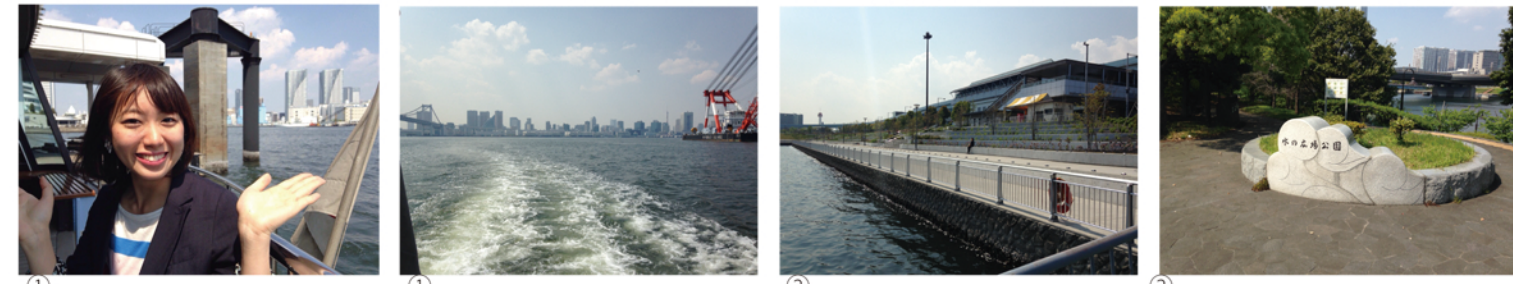
プロジェクト終了から7年が経過している為、情報をアップデートを行い、水上交通などの現状を知る。



- ・東京都スポーツ振興局は、20年の東京五輪開催に伴い、道路に設定する専用・優先レーンを検討中。候補路線案の一つに選手村とオリンピックスタジアムパーク、IOCホテルを連結する環状2号線が挙げられる
- 道路の建設を水上バスの船着き場の建設費にあてる（約1/70の費用で済む）可能性
- ・大型クルーズ客船埠頭を都が臨海副都心地域に整備予定。大型クルーズ客船に合わせたホテルやコンベンションホール、カジノなど客船埠頭に合わせた観光化計画も浮上。
- レインボーブリッジの桁下高の制限から晴海埠頭に客船が着岸できず。観光地としての発展は難しい現状。

### ②中央区ウォーターフロント観光客体験

水上交通（水上バス）の主な利用者は観光客である。2020年東京オリンピックの開催も決まり、より一層観光客の増加が見込まれるこの地域において、観光客の動線や利用施設を自らが観光客となって体感する。水上交通や水際空間の利用法から水上バスのコース増設が果たして現実的な案であるか検証する。



## <介入まとめ>

2007年の段階では運行していた日の出桟橋～晴海区間の水上バスが運行停止しており、晴海への交通手段は車・バス・徒歩に限られる。また、晴海から新豊洲に移動する主要な手段も道路一本とお台場方面を通ってゆりかもめで大回りするか2択に限られている。よって、オリンピック選手村建設建設予定の晴海と他競技の多くが行われる台場・有明エリアとを結ぶ水上交通はオリンピック開催中の交通緩和の為に晴海の船着き場を復活させる事は有効な水際空間利用法であると考えられる。月島～勝どきと晴海間の水上交通への需要は低く、既にある屋台舟やアサリ漁の舟が東京湾に出る妨げにもなりかねない為、必要性は低いと感じた。